

馬詰研究奨励賞海外研修等実施報告書

令和7年11月5日

工 学 研 究 科 長 殿

所 属： 高分子化学 専攻
課 程： 博士後期課程 2 回生
氏 名： 柳原 拓海

研修の目的	自身の専門とは異なる分野の研究に取り組むことで、研究者としての視野を広げると共に、英語でのディスカッションを含む海外での研究経験を積むことを目的とする。		
研修の期間	2025年6月1日～2025年8月31日		
研修の実施先	日程	滞在地	研修実施機関名等（指導教員名）
	2023年6月2日～2023年8月29日	米国ペンシルベニア州ピッツバーグ	カーネギーメロン大学 (Kevin J. T. Noonan)
研修の概要	受け入れ先研究室の研究テーマである新規アニオン交換膜材料の開発に従事し、有機合成や各種分析に取り組む。また、日々の生活や週2回開催のグループミーティングの中で、英語での議論や発表の経験を積む。		
研修の成果等	研究室にまだ知見がほとんどないアプローチでの新規材料開発という挑戦的なテーマであったが、テーマ進展のきっかけになる結果を得ることができた。自身のイオン性化合物の取り扱いの経験も活かすことで、新規材料の合成戦略の提示にも成功した。また、日本の所属研究室では扱わないような試薬やそれらを用いた有機反応、専門的な測定等の経験を積むことができ、研究者としての見識を広げられた。3か月の中で自身の英語力も飛躍的に向上し、1対1であれば込み入った議論もこなせるようになった。		
その他 ※本海外研修経験による将来の抱負等	本海外研修において、優秀な海外の学生や研究者との協働経験を積む中で、自身の研究者としての知識・経験だけでなく、英語力に関しても、至らない点を再認識できた。残りの学生生活だけでなく、博士学位取得後も自己研鑽を続け、世界のどこでも活躍できるような研究者になれるよう、本研修を糧にして精進したい。		